

『紅の口紅 (12/04)』

鏡に映る  
私の心よ  
悲しまないで  
哀しまないで  
紅の口紅  
ひとつひき  
炎の色よ  
心に沈んでおくれ

泣かないで  
涙を流さないで  
私の傷心よ  
唇をきりりとむすび  
紅の口紅  
ふたつひき  
思い出よ  
心に沈んでおくれ

いつかきつと  
その扉を開くまで  
安らかに眠ってておくれ  
紅に染めた唇を

きりりと結んで  
いつか幸福を  
きつと掴むまで

『十二月の陽 (12/23)』

十二月の日々は  
温もりと寒さの  
斑模様なのです  
陽の照る場所は  
暖かく心地好く  
陽の陰り場所は  
心も萎えるのです

まるで人生の様に  
陽の当たる場所は  
眩しく眩しく  
キラキラと輝いて

まるで人生を語る様に  
陽の陰たる場所は  
寒く冷たく

輝きなど無いのです

いいえ若さや老いと言った  
ものではありません  
人の定めなのです  
生まれる前からの  
人の歩く路なのです  
逃げることも出来ない  
人の道行きなのです

秋から冬へと  
葉を落とした裸樹の様に  
十二月の日々は  
人生のなにもかもを  
見せてくれるのです  
路ゆく人の人生景を  
語ってくれるのです

『やびつや (12/26)』

ひとりぼっちの  
私の行先は  
クリスマスの街を

震えながら逃げ出し  
ひとりぼっちの  
私の生きは  
正月で祝う街を  
涙を吹きながら逃げ出し  
たったひとり  
たったひとり

いつか私にだって  
共に支えあう人を  
持ちたい  
クリスマス之夜を  
手を取合って歩きたい  
正月の日々を  
人の情と通いあいたい  
今の私は  
たったひとり  
たったひとり

『旅人 (12/27)』  
クリスマス之夜  
旅人は一人  
星空の野畑を

歩いていきます  
過ぎ去りし背の  
向こうには  
地上の不夜の街灯りが  
煌々と瞬いているのです

今宵はクリスマス  
メリークリスマス  
今宵はクリスマス  
メリークリスマス  
今宵はクリスマス  
メリークリスマス  
今宵はクリスマス  
メリークリスマス  
今宵はクリスマス  
メリークリスマス

ネオンが渦巻き  
街灯がチカチカし  
心の欲望が  
キラキラと  
輝いています  
なぜって? だって  
今宵はクリスマス  
メリークリスマス

今宵はクリスマス  
メリークリスマス  
今宵はクリスマス  
メリークリスマス  
今宵はクリスマス  
メリークリスマス  
今宵はクリスマス  
メリークリスマス  
今宵はクリスマス  
メリークリスマス

赤い顔と空笑の響き  
正直になれない  
人生の生活者たち  
今宵はクリスマス  
メリークリスマス  
鬱ろな顔  
子供はやがて  
大人の真似をする

今宵はクリスマス  
メリークリスマス  
今宵はクリスマス  
メリークリスマス  
今宵はクリスマス  
メリークリスマス  
今宵はクリスマス  
メリークリスマス  
今宵はクリスマス  
メリークリスマス

メリークリスマス

一人道ゆく旅人は  
星々の眩きを  
耳に聞き  
暗闇に眠る  
野畑の寝息を聞き  
不夜城を反り  
見ることなく  
明日に向かって歩きし

『畑 (12/28)』

霜が降りた  
畑の果てから  
巨大な太陽が  
昇ってくる  
白い空を背景に  
真紅に燃えながら  
ぐんぐんと  
昇ってくる  
畑野には  
靄が立ち込め  
鳥が一羽飛んで行く

寒い朝が  
太陽に照されている

『イブの夜 (12/28)』

年の暮れ  
早朝の空は  
雲多く  
遅い朝明けです

車のライトは照り  
暗い地上に建物の  
照明が際立っています  
裸樹がようやく  
姿を現し  
微かに小鳥の囀りが

でも通る車の音が  
何もかも消して行くんです

ハンドルを握った  
顔はまるで

俺様のお通りだと  
いない敵を睨みつけている

『電線 (12/28)』

十二月二十八日の朝明けは  
重く垂れ下がった  
雲の夜明け  
裸木が容姿をあらわにし  
小鳥が  
ほつら三羽飛んで行く

畑の上を電線が  
ひゅーひゅーと  
唸っている  
雲が異様を  
知らせるように  
空の一点から  
刻々と黒く染めている

ヒューヒューヒュー  
ひゅーひゅーひゅー  
電線は唸り

その風が街へ向かって  
進んでいる

あああ……………  
黒雲に覆われた  
昼なお暗き街は  
色とりどりに  
ネオンが灯り  
イルミネーションが  
煌々と輝き

ああ……………ああ  
街の上空へと  
ゴミと塵が舞い昇っている  
ああ……………ああ  
これが都会なのだ  
ああ……………ああ  
これが都会なのだ

『ガラス窓 (12/28)』

夜の窓に私が映っている  
私の自画像が写っている  
じいっと私を見つめている

何を見つめているのだ—  
来し方行く末をか  
何を凝視しているんだ—  
今の生活をか  
私の自画像が私を睨んでいる

夜の庭は雨が上がり  
いままで空が流した涙は  
大地へと沁み込み  
草木が音もなく  
夜のしじまに佇んでいる  
滋養となった涙を吸いとり  
庭の草木は花や実と  
涙を昇華させるのだろう

ガラスに写る私の像が  
じいっと私を見つめている  
人間でいることの幸せを  
見抜いているように  
人間で有ることの淋しさを  
知っているように  
ガラス窓の自画像が  
静かに私を睨んでいる

End all 1994/12